◀Eボートに乗って湖面を走る参加者たち。全員で協力しながら進むので、疲れたら休憩を挟むこともできるし、同乗者同士で会話を楽しむこともできる。生涯学習課藤森敦課長は「まずはカヌーに触れ、その楽しさを実感することが一番大事。子どもたちの体験教室では、このEボートが活躍します。安全性に優れ、大勢でわいわい歓声を上げながら楽しむのにうってつけ。一人乗りとはまた違った魅力があります」と話していた。

可能性

possibility

カヌーによるまちづくり
自然を生かした川根本町のカヌー環境は
愛好者にとっては聖地ともいえる
朱澄さんを交えた
体験教室（11月23日）にその可能性を見た

カヌー愛好者の「聖地」本町内ではどうだろう

川根本町ではわかふじ国体の開催前から、カヌーによるまちづくりを進めようと各事業を展開してきた。

現在小、中学校では、夏場の授業にカヌー体験教室を採り入れている。本川根B&G海洋センターが主催。同所職員が指導者となって子どもたちにカヌーの操作方法やその魅力など教えている。対象は町内全学校の全児童・生徒。これによって本町の子どもたちは、必ずカヌーと触れ合う経験が約束されている。特に、中学校では選択授業にカヌーを採用することで、継続的にカヌーを体験できる環境が整えられている。夏場の各学校のプールに出向くと、初めてカヌーに乗り、楽しそうに水しぶきを上げる子どもたちの歓声が聞こえてくる。

このほかにもB&G海洋センターが実施するカヌー出前教室や県主催の大会、長島ダム周辺を会場としたイベントなども数多く開かれ、住民がカヌーと触れ合う機会の創出を図っている。

シーズン中の週末には、ワゴン車の屋根にカヌーを乗せて本町を訪れ、一日かけて楽しんでいくカヌーイストのグループを多く見かけるようにもなった。根っからのファンにとっては、本町は言わば「カヌーの聖地」。わざわざ外から訪れるだけの価値がある町ということだ。

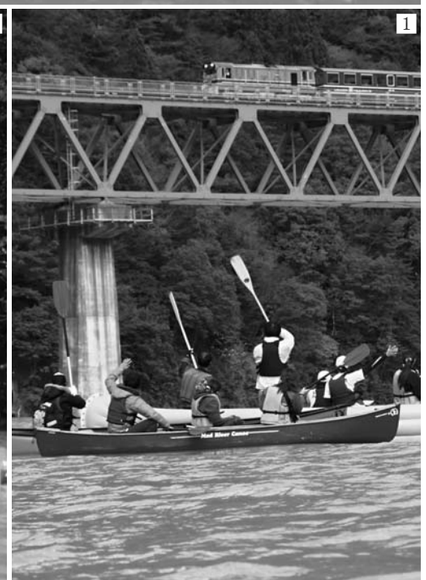
しかしながら、町内にはどれくらいカヌーファンがいるだろうか。水に濡れる、道具をそろえる必要がある、一見すると怖そうなイメージがある、湖まで行くのが大変…。子どもの頃、カヌーに乗って歓声を上げた人も、その場限りの体験になってしまっていることが多いのではないだろうか。大人になってから「やってみたい」と思ってみても、道具をそろえられなかったり、日常の忙しさに没頭してしまったりして、いつの間にかカヌーに触れる機会を逃してしまうことが多い。非常にもったいないことのようにも思える。

普段とは違う光景に感動

B&G海洋センターでは11月23日、大村朱澄さんのオリンピック出場を記念したカヌー体験教室（しずおかスポーツフェスティバル）を開いた。オリンピック出場によってカヌーへの関心が高まりつつある今、一人でも多くの人にその楽しさを実感してもらおうと企画したもの。当日は初心者向け体験教室やカヌーツーリングが開かれ、接岨湖カヌー競技場に参加者約20人が集合した。

今回B&G海洋センターでは、一人乗り、二人乗りカヌーのほかに、大人数で乗れる「Eボート」というタイプのカヌーも用意した。これは災害救助にも利用されるほど安全性が高い艇で、子どもでも安心して乗ることができる。それでいて水の上を走る爽快感は、一人乗りの艇と何ら変わらないという。

午前9時から開始されたカヌーツーリングと体験教室。朱澄さんと一緒にカヌーに乗り込んだ参加者たちは、水の上を走る魅力を満喫。水面に反射する光の美しさに心奪われ、紅葉に染まる山肌の色合いに感激の声を上げながら、約2時間のカヌーツーリングを楽しんだ。



1レインボーブリッジを行くトロッコ列車に手を振る参加者。運転手が手を振り返してくれて大喜び2雨のあと数日間だけ現れる滝を見た参加者は「得した気分ですね」と話した3帰路につく参加者。まるでカナダ辺りの湖にいるような印象的な光景だった